

日時 平成26年7月2日(水) 13:00～16:30
会場 高知県立高知東工業高等学校
出席者 井上喜雄委員、山崎隆委員、東章子委員、近藤三千代委員、山崎道生委員、池澤研吉委員、
桑原光照委員、三谷英子委員
教育次長(中山)、高等学校課長(藤中)、課長補佐(竹崎)、
定通・産業教育チーフ(正木)
指導主事(農業・水産担当、工業・情報担当、家庭・看護・福祉担当、商業担当、
再編振興担当1名)
高知東工業高等学校(高岸学校長、北村教頭)

配付資料

- 座席図
- 式次第
- 平成26年度 高知県産業教育審議会委員名簿
- 参考資料
 - ・ 産業教育振興法
 - ・ 高知県産業教育審議会条例
 - ・ 高知県産業教育審議会規則
 - ・ 高知県産業教育審議会議事運営規則
- 資料1 平成25年度高知県産業教育関係実績書
- 資料1-1 平成25年度産業系専門学科及び総合学科等における検定・資格等の取得状況調査
- 資料1-2 進路状況について
- 資料2 平成26年度産業教育関係事業計画
 - ・ 産業教育民間講師招へい事業計画
 - ・ 企業・学校を知ろう事業(企業・学校見学)計画
 - ・ インターンシップ事業(就業体験)計画
 - ・ 農林業体験インターンシップ事業
 - ・ 高知県地域産業担い手人材育成事業 実施計画
- 資料3 平成25年度産業教育審議会概要
- 資料4 産業系高校の取組・新聞記事
- 資料5-1 県立高等学校再編振興計画について
生徒数、入学定員等の状況
- 資料5-2 県立高等学校再編振興計画について
県立高等学校再編振興計画の基本的な考え方(案)
- 資料5-3 県立高等学校再編振興計画について
前期実施計画(案)の策定に向けた たたき台

1 開会

- (1) 教育委員会挨拶
- (2) 審議委員の紹介
- (3) 事務局の紹介
- (4) 会長・副会長選出
 - ・会長に三谷英子委員が推薦され、承認される。
 - ・副会長に大野吉彦委員が推薦され、承認される。

2 学校視察及び説明

- (1) 学校視察（施設・設備及び授業）
- (2) 学校説明

【質 疑】

- 山崎(隆)委員 : 女子生徒の入学状況はどのくらいか。また、高知東工業の生徒は、各学科で学んだ分野に就職しているか。
- 学校長 : 現在在籍している女子生徒は、3年生1名、2年生0名、1年生4名の合計5名である。機械系、電子系の学校であり、男子生徒が多いのが現状である。就職については、ほとんどの生徒が高校で学んだ分野への就職をしている。インターンシップ等での体験を生かし、各学科で学んだ分野に就いている。
- 井上委員 : 各学科の専門性をより深く学ぼうとすると、一般教科の学習との兼ね合いもあり時間数を確保するのが、難しいのではないか。そういった点での工夫はされているか。
- 学校長 : 実習の時間や課題研究の時間等を工夫し、取組んでいる。
- 山崎(道)委員 : ものづくり高校であるからこそ、日本特有のものづくりへの精神というか、最高のものに触れたり、多くの体験を通して考えるような場を作ってほしい。

- (3) 資料説明

- (4) 議事

- ① 平成25年度 産業教育の取組状況 説明
- ② 平成26年度 産業教育の事業計画 説明
- ③ 平成25年度 産業教育審議会の概要 説明

【質 疑】

- 山崎(道)委員 : 各学校、各学科で盛りだくさんの内容に取組まれており、担当されている先生方は大変ではないか。何かお困りの点はないか。
- 正木チーフ : インターンシップ等で、企業とのパイプ役である担当の教員の負担が大きいことは確かにある。その点においては、情報提供等を行っている。また、各学校での組織体制の見直しについては、学校でも取組が必要である。企業と学校との連携においては、今年度から情報交換会も行っている。
- ④ 産業系高校の取組・新聞記事 説明
- 三谷会長 : 農業高校の販売など人気がある。このように生徒や学校の頑張りがマスコミに出ることは、とても良いことだと思う。

- ⑤ 県立高等学校再編振興計画について 説明

- *再編振興担当より説明後、教科担当より各学校（各学科）の取組や課題について説明
- 井上委員 : 各学校の就職先を見るとほとんどは県内への就職であるが、宿毛工業高校は、

- 県内への就職が少ないが何か理由があるのか。
- 藤中課長 : どの生徒も県内への希望が多いが、県内の企業の多くは高知市内にある。そうなると、宿毛方面からの希望者は下宿することになり、県外に出ることと同条件になる。福利厚生面などを考えると県外への就職になることも多い。
- 井上委員 : 宿毛工業団地の方には、行っていないのか。
- 藤中課長 : 就職はしているが、全ての科の希望者を全員受け入れるとなると、難しい。
- 三谷会長 : 工業系は設備の維持や管理といった面でも大変だと思うがその点はどうか。
- 前田指導主事 : 大きな機械であると20~30年は使用している。ただしコンピュータ系のは、10年くらいで古くなるので更新する為の費用が必要になる。
- 井上委員 : ある一定の生徒数を確保するかそういったことは、今後もできると思うが、工業のそれぞれの学科の特徴全てを、その地域に生かすというのは難しいだろう。今後は、5つある工業高校の役割分担が大事になってくるのではないだろうか。
- 三谷会長 : 産業振興の中ではここは外せないことであり、即戦力となる育成の場は大事である。
- 井上委員 : 県の施策と上手くマッチさせて、地域にあった学校にしてもらいたい。
- 桑原委員 : 海洋高校から水産系への進路決定者が少ないということであったが、地元の水産関係の仕事はどれくらいあるのか。
- 正木チーフ : 非常に少ない。実際に水産関係に就職した生徒は、海洋高校では平成23年度以降はいない。
それ以前でも、数名しか県内に就職していない。
- 藤中課長 : 海洋高校では、説明にもあったように3つのコースで学んでおり、食品加工のコースの生徒は、水産関係の仕事に就くというよりは、鮮魚店や鮎屋などへ就職している者もいる。それ以外の生徒は、他学科と同様にサービス業など多様な職種に就いていることが多い。機関や航海のコースの生徒は卒業後、2年間の専攻科へ進み、国家資格取得を目指す者やさらに進学している者もいる。
- 井上委員 : 農業にしても水産にしても、すばらしい取組をしており、また県が力を入れている分野であるにも関わらず、入学定員を満たしていないというのは、どういったことが原因か。
- 藤中課長 : 現状としては、中学校段階で高校を選択する際に、初めから一次産業に進みたいという明確な目的をもっている生徒は少ない。普通高校に行ってキャリア教育等を通して、将来の進路決定に結びつけていく生徒が多い。
- 山崎(隆)委員 : 都会から高知の西部に移住してきた知人がいる。子どもの高校進学について、部活動を基準に選択すると、近隣にその部活動ができる学校がなかったため、母親と子どもが高知市内に住居を構え、生活するようになった。農業をするために都会から移住してきたのに、高知市内に家を構えて家族がバラバラになっている。学校の存続は、地域や農業といった一次産業を存続させることにもつながっている。再編振興には、こういったことも関連づけて検討する必要があると思う。
- 東委員 : 一定の生徒数がいないと一定の教育活動はできない。私は、小さな村にいますが、地元の中学校では、生徒がいなくて野球部など活動できない部活動があった。このことに対して地域の保護者は危機感をもっている。やはり、ある一定の生徒数の中で学ぶ機会がある方が、子どもたちのよりよい成長につながる。

- 藤中課長 : 現状としてはそういったことがあるが、県教委としても重要な課題ではある。ただこういった地域でもうまくいっている事例もある。嶺北地域では、一度は高知市内や県外へ進学、就職で出て行くが、その後はまた嶺北地域へ戻ってきて地域の人材がとどまっているということもある。とはいっても、就職先のことなど課題はある。このことは、県の施策と一緒に考えていく必要がある。
- 近藤委員 : 地元中学校へのPRということがあげられていたが、工業や農業系の高校も中学校側へのアプローチする機会はあるのか。
- 藤中課長 : 全ての高等学校において、一日体験入学として中学生が高校で、授業参観したり、施設見学したりする日を設けている。また、須崎工業高校では、地域の中学校教員向けに、地域の企業と一緒に見学し工業についての理解を深める取組を実施している。また、高知農業高校は一日の体験ではなく、夏休み等に自由に来てもらう期間を設けて、体験してもらうようにしている。また産業系の高校は、実際に実習を見学してもらったり体験してもらったりして、学習内容を知ってもらう場を積極的につくっている。
- 山崎(道)委員 : 看護は人手不足とよく言われるが、定員を増やすということはないのか。
- 藤中課長 : 養成機関としては、専門学校や私立高校もあり、県全体として考えた時に、定員を増やすということは、現段階では考えていない。それよりも、少人数制で手厚い指導をし、即戦力となるスペシャリストを育てていきたいというのが県の考えである。
- 三谷会長 : いつも看護師さんは足りないということは聞くが、やはり看護師のレベルの確保というのは必要なことである。
- 山崎(隆)委員 : 看護師が不足していると言われる中で、県内、県外の就職先というのはどうなっているか。
- 藤中課長 : 年によっても違うが、半分ずつくらいである。高知東高校の生徒さんは即戦力になるが、さらに専門性を向上させるために、県外の病院で学んだり、進学するものもいる。
- 三谷会長 : 再編振興のことも含めて各教科から説明がありましたが、全体的に産業教育として、生徒の学習意欲につながる取組など、何かありませんか。
- 山崎(道)委員 : 産業系の高校なので、やはり職人芸というか、ものづくりの究極の部分を体験させてほしい。
- 池澤委員 : 今回、高知東工業高校を見学して思ったことは、ものづくりは日本が発展していった土台となるものであるし、そういった意味でも県内の工業高校が、県内の人口分布に合わせて設置されることが、大事だということを感じた。同じ工業高校といってもそれぞれの特色をもっており、高知県の特徴を生かせるようにバランス良く配置されることが望ましい。
- 藤中課長 : 再編振興計画において、産業系の高校は、この10年においてはご意見にもあったように県内全体にバランス良く配置されているので、どこの学校であっても同様のことが学べ、またできるだけ各地域において特色が出せる学校という形で進めて行く。